

# ネットワーク接続型ストレージ NAS Data Appliance

## ファームウェア Ver.12 追加機能マニュアル

### 内容（新機能）

- クロックの設定 Page 2
- ActiveDirectory のユーザ情報の更新 Page 4
- バックアップ設定画面の変更 Page 4
- 大容量データのバックアップ機能 RDX スパニング Page 5
- ファイルおよびフォルダレベルの RDX バックアップ Page 11
- リストアの復元先とポリシーの変更 Page 12
- バックアップの停止ボタン Page 12
- ジョブの進行状況表示 Page 13
- RDX バックアップにフォーマットオプションを追加 Page 13

2012 年 5 月 27 日

イメーション株式会社

## クロックの設定

システムクロックを設定して、ファイルの作成と変更が適切に記録され、予定されたアクティビティ（例えばバックアップ）が適切に実行されるようにすることをお勧めします。

システムクロックを設定または変更するには、以下の手順を実行します。

1. [管理ツール]タブから、[サブシステム情報]メニュー項目をクリックします。
2. [日付設定]ボタンをクリックします。
3. [日付設定]ウィンドウで、以下の手順を1つまたは複数実行します。
  - ・日付を設定するには、[日付設定]フィールドをクリックし、テキストを編集するか、またはドロップダウンカレンダーを使用します。
  - ・時刻を設定するには、プルダウンメニューを使用して正しい時間、分、秒を選択します。
  - ・タイムゾーンを設定するには、プルダウンメニューを使用して正しいタイムゾーンを選択します。
4. [保存]をクリックします。



[管理ツール]> [サブシステム情報]> [日付設定]> [日付設定]

NTP (Network Time Protocol: ネットワークタイムプロトコル) インターネットサーバを使用してシステムクロックを同期させることができます。この機能を利用するには、システムがインターネットに接続されている必要があります。

同期の前に、現在の日付、時刻、タイムゾーンを手動で設定しておくことをお勧めします。

システムクロックを NTP サービスと同期させるには、以下の手順を実行します。

1. [管理ツール]タブから[サブシステム情報]メニュー項目をクリックします。
2. [日時設定]ボタンをクリックします。
3. [NTP 管理]タブをクリックし、以下を構成します。
  - ・ [NTP を使用して自動に時間を設定します]チェックボックスを選択し、このサービスを有効にします。
  - ・ 1 つまたは複数の NTP サーバアドレスを[サーバー]フィールドに入力します。
  - ・ [同期方式]のラジオボタン ([時間単位]、[日次]、[月次]) を選択し、同期スケジュールを決定します。
4. 即時にシステムクロックを同期させる場合は、[保存して同期の実行]をクリックします。
  - ・ スケジュールされている次の間隔で同期を実行する場合は、[保存]をクリックします。



[管理ツール]> [サブシステム情報]> [日時設定]> [NTP 管理]

## ActiveDirectory のユーザ情報の更新

ActiveDirectory のユーザ情報を自動的に更新するようになりました。また手動でも更新できます。

手動で更新する場合は、[管理ツール]メニューから[NAS ユーザ]をクリックし[AD ドメインのユーザを更新します。]ボタンをクリックします。]



[管理ツール]> [NAS ユーザ]

## バックアップ設定画面

バックアップ設定画面を 3 グループに分けました。

ローカルバックアップ : スナップショットバックアップ、ローカルバックアップ、タイムマシーン・バックアップ、RDX@コピー、RDX@スパニング



[NAS]> [ローカルバックアップ]

リモートバックアップ：リモートサーバー、リモートクライアント、iSCSI レプリケーション



[NAS]> [リモートバックアップ]

クラウド・バックアップ：Amazon S3, DropBox, OpenStack, Grand Cloud, CTC Cloud



[NAS]> [クラウド・バックアップ]

## 大容量データのバックアップ機能 RDX スパニング

RDX カートリッジにバックアップするデータが RDX カートリッジ一本あたりの容量を超える場合、システムは複数の RDX カートリッジを使用する必要があります。これは、複数の RDX カートリッジにわたる「スパニング」と呼ばれます。RDX スパニングは Unix TAR（テープアーカイブ）コマンドの使用に基づいており、特定サイズのコンテナ（RDX スパニングバックアップの開始時にマウントされる RDX カートリッジの容量に基づく）を作成します。TAR コンテナ内の個々のファイルを参照することはできず、個々のファイルを参照する唯一の方法は RDX スパニングバックアップジョブ全体をリストアすることです。RDX スパニングは RDX カートリッジを使用した場合にのみ機能し、RDX スパニングバックアップで使用される RDX カートリッジ内の既存のデータはすべて上書きされます。

## RDX スパニングバックアップの実行

1. 使用順序がわかるようにラベル（カートリッジ #1、カートリッジ #2、など）を付けて、RDX カートリッジを準備します。スパニング操作中に RDX カートリッジに書き込まれる TAR ファイル名は disk1.tar、disk2.tar などですが（注：[設定]の[ファイル名プレフィックス]オプションを使用すると、「disk」を別の文字列に変更可能）、外部ラベルがあると RDX カートリッジの管理に役立ちます。TAR コンテナサイズは最初のカートリッジの容量に基づくため、各 RDX カートリッジの容量が同じでない場合は最初のカートリッジが最小の容量であることを確認してください。また、TAR コンテナサイズが最小容量の RDX カートリッジより大容量の RDX カートリッジに基づいている場合、最小容量のカートリッジが挿入されると TAR コンテナは収まらず、エラーが発生します。
2. 最初のカートリッジを挿入します。管理ソフトウェア GUI の[デバイス]タブで[外部ドライブ]を選択してステータスを表示することにより、カートリッジが正しくマウントされているかどうかを確認できます。RDX カートリッジが正しくマウントされていない場合、RDX スパニングは実行されません。
3. [NAS]タブの[バックアップ]セクションから、[RDX スパニング]を選択します。使用される RDX システムの[マウント済]列に「はい」と表示されていることを確認してください。この例では、T5R の内蔵 RDX を使用しています。



[NAS]> [ローカル・バックアップ]> [RDX@スパニング]

4. 目的のRDX ターゲットの上にマウスを移動すると、[表示]、[リストア]、[バックアップ]という3つのオプションが表示されます。



[NAS]> [ローカル・バックアップ]> [RDX@スパニング]

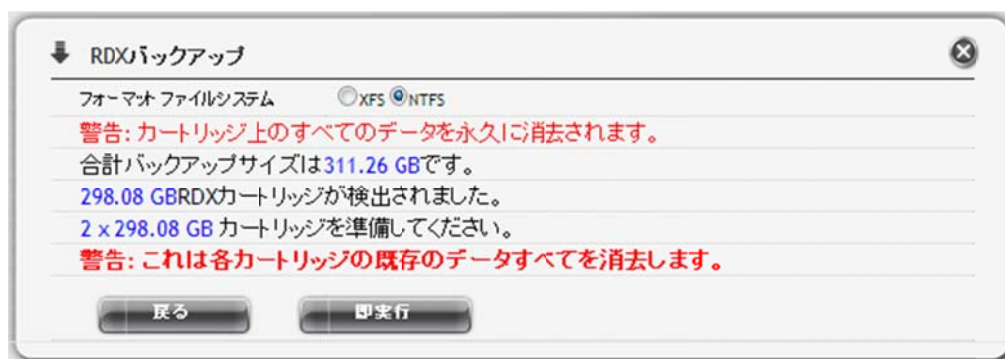
[表示]はRDX カートリッジのステータスを表示します。[バックアップ]および[リストア]はそれぞれのジョブを開始します。

5. [バックアップ]を選択すると、ディレクトリのツリーが表示されます。バックアップ対象のカテゴリを選択します。この例では、PICTURE と PUBLIC フォルダがバックアップされることを示しています。



6. [次へ]を選択し、実行するように設定されているバックアップジョブの概要に移動します。バックアップ前にカートリッジがフォーマットされます。フォーマット形式を選んでください。バックアップされるデータの容量が、取り付けられているRDX カートリッジの容量とともに表示されます。必要なRDX カートリッジの数を決定するための計算が行われます。

この例では、バックアップするデータの容量は 311.26GB であり、RDX カートリッジの容量は 298.08GB です (RDX カートリッジには 320GB の容量を示すラベルが付いていますが、これは 298.08GB のバイナリ容量に相当する 10 進表記です)。これらの RDX カートリッジが 2 本必要であると示されています。



7. [即実行]を選択するとバックアップジョブが開始します。ジョブの実行中は、LCD ディスプレイには「RDX Backup」と表示され、[ステータス]には「処理」と表示されることに注意してください。



8. バックアップジョブが完了すると、ユニットが 1 回ビーブ音を発し、LCD ディスプレイに「Back up OK」と表示され、[ステータス]は「アイドル」に変わり、管理 GUI に完了メッセージが表示されます。



[NAS]> [ローカル・バックアップ]> [RDX@スパニング]



- データのリストアまたは RDX カートリッジの再利用を実施する時まで、RDX カートリッジを安全な場所に保管しておきます。

## RDX スパニングリストアの実行

- スパニングされた RDX バックアップの最初の RDX カートリッジをリストアで使用する RDX ドックに挿入します。[NAS]タブから[バックアップ]を選択し、[RDX スパニング]を選択します。RDX カートリッジが正しくマウントされていることに注意してください（[RDX スパニング]タブでは[マウント済]に「はい」と表示され、また、[デバイス]タブで[外部ドライブ]を選択すると、[ステータス]に「接続済み」と表示されます）。
- 目的の RDX ターゲットの上にマウスを移動し、[RDX 復元]を選択してリストア設定を取得します。



- リストアジョブを受け入れる準備ができれば、[はい]を選択してジョブを開始します。
- リストアジョブが完了すると、ユニットが 1 回ピーブ音を発し、LCD ディスプレイに「Restore OK」と表示され、[ステータス]は「アイドル」に変わり、管理 GUI に完了メッセージが表示されます。



[NAS]> [ローカル・バックアップ]> [RDX@スパニング]

## 設定オプションの使用

1. RDX スパニングで[設定]ボタンをクリックします。



2. [時間切れ]では、選択された時間内に RDX カートリッジが挿入されない場合、RDX スパニングバックアップまたはリストアを停止するようにシステムに指示します（たとえば、ジョブが 3 本の RDX カートリッジを必要とするときに、1 本目または 2 本目のカートリッジの後で、タイムアウトが発生する前に次の RDX カートリッジが挿入されなければ、バックアップジョブは停止します）。タイムアウト前にバックアップまたはリストアされたファイルは存在していますが、どのファイルがジョブで処理され、どのファイルが処理されなかったのかはわかりません。
3. [ファイル名プレフィックス]では、TAR ファイル名のプレフィックスを「disk」から任意の選択テキストに変更します。デフォルトのファイル名は disk1.tar、disk2.tar などです。[ファイル名プレフィックス]ボックスに「XXXX」と入力すると、ファイル名は XXXX1.tar、XXXX2.tar などに変わります。
4. [復元ポリシー]では、現行ファイルとフォルダを上書きする（リストアされたファイルとフォルダは RDX スパニングバックアップジョブ実行時と正確に同じになる）か、または[フォルダの追加]を使用して、リストアしたファイルとフォルダをリストアジョブが別のフォルダに配置するようにするかをユーザが選択できます。
5. [復元フォルダ]は、[復元ポリシー]で[フォルダの追加]を選択した際のリストア先のフォルダです。
6. [保存]ボタンと[キャンセル]ボタンは、それぞれ設定の保存または設定の取り消しを行います。

## ファイルおよびフォルダレベルの RDX バックアップ

RDX バックアップ内で、フォルダ全体を指定するのではなく、選択されたファイルおよびフォルダをカートリッジにバックアップまたはリストアできるようになりました。特定のファイルまたはフォルダを指定するには、以下の手順に従う必要があります。

1. [NAS]->[バックアップ]の[RDX バックアップ]で、[設定]をクリックします。
2. バックアップ方式を選択し、[次へ]をクリックします。
3. ツリー構造内を移動し、選択するファイルまたはフォルダのチェックボックスをオンにします。
4. [即実行]をクリックして、指定されたジョブを実行します。

ファイルまたはフォルダを選択するときには、以下の規則が適用されます。

- ・ フォルダを選択すると、そのフォルダの下すべてのサブフォルダとファイルも選択されます。
- ・ サブフォルダまたはファイルを選択すると、親フォルダにはグレーアウトされたチェックボックスが表示され、その特定フォルダの一部の（すべてではない）ファイルまたはフォルダのみが選択されていることが示されます。
- ・ 選択されているフォルダ（グレーアウトまたはその他）のチェックボックスをオフにすると、その特定フォルダの下すべてのファイルとフォルダが選択解除されます。



## リストアの復元先とポリシーの変更

リストアの復元先がバックアップの元のフォルダになりました。そのためポリシーが「同期」の場合誤ってバックアップ先が空のフォルダをリストアすると元フォルダのデータが消えてしまう危険があります。そのため、リストアのポリシーから「同期」は選択できなくなりました。



## バックアップの停止ボタン

バックアップジョブの[停止]ボタンが追加されました。



## ジョブの進行状況表示

ジョブの進行状況がファイル数で表示されます。

スナップショット バックアップ				
ローカル バックアップ				
タイムマシン バックアップ				
RDX@コピー				
RDX@スパニング				
バックアップデバイス	方向	バックアップ方法	マウント済	ステータス
フロントUSB	RDXへのバックアップ	N/A	いいえ	アイドル
USB 2	RDXへのバックアップ	N/A	いいえ	アイドル
USB 3	RDXへのバックアップ	N/A	いいえ	アイドル
USB 4	RDXへのバックアップ	N/A	いいえ	アイドル
USB 5	RDXへのバックアップ	N/A	いいえ	アイドル
内蔵RDX	RDXへのバックアップ	コピー	はい	処理 428 of 601

## RDX バックアップにフォーマットオプションを追加

RDX コピーと RDX スパニングにジョブ開始前にカートリッジをフォーマットするオプションが付きしました。XFS と NTFS が選択できます。それ以外のサポートされているフォーマットを使用する場合は事前にフォーマットを済ませてください。RDX スパニングに使用したカートリッジは RDX コピーには使用できませんのでここでフォーマットオプションを選ぶかあらかじめフォーマットをやり直してください。

**設定 - 内蔵RDX** ✕

方向  RDXからの復元  RDXへのバックアップ

バックアップ方法

**警告: コピーまたは家庭のフォルダーを同期バックアップ先でユーザー フォルダへの変更を引き起こす可能性があります。**

フォーマット

フォーマット ファイルシステム  XFS  NTFS

**警告: カートリッジ上のすべてのデータを永久に消去されます。**

スケジュール  無効  一定時間間隔  日次  週次